

# 「あなたのデフォルト」

使徒5：18～33、創世記22：1～14

## ■ 一人の人が取った行動

これは日本経済新聞の電子版の記事の中に掲載されていた社説です。

「名古屋から大阪に向かう新幹線に乗っていた。そうすると3ヶ月の赤ちゃんを抱えた夫婦がその電車に乗ってきた。赤ちゃんは新幹線の中でグズリ始めて名古屋から新大阪までの1時間弱の間、ずっと泣いていた。お父さんは泣き止まない赤ちゃんをデッキに連れて出たり戻ったりまたデッキに出たり戻ったりで何も対処ができないそんな状況だった。新大阪の駅に着いた時に、この夫婦のお父さんがぐるっと向きをかえて乗客の方を見て「皆さん大変お忙しい移動の最中に皆さんに不快な思いをさせてしまって申し訳ありませんでした。どうか許してください。」こう言って謝ると前に座っていた何人かの乗客を含めた会衆が「みんな一緒だよ、気にすんなこの後も気を付けて行けよ」と言った。そうすると会衆から大きな拍手がでた。」

このような社説が出ていました。一人の人が取った行動、開き直ることもできたしみんな一緒だと言うこともできましたが、赤ちゃんのお父さんが取った方法は人々の心を変える言葉でした。右でも左でもない最善な方法を選んだことは謙遜の内から現れた奇跡だったと思います。

## ■ デフォルトの意味

何もしないこと、成すべきことが成されないこと

1. 債務不履行
2. コンピュータで、あらかじめ設定されている標準の状態・動作条件。初期設定。初期値。

## ■ アブラハムのデフォルト

アブラハムがアブラムだった頃、神から「わたしの示す地に行きなさい。わたしはあなたを祝福する」と言われ、メソポタミアから出発し、カナンまでやって来ました。そしてアブラムはカナンで新生活を始めたのですが、やがてその地域一帯に飢饉が訪れました。彼はエジプトに行く決断をします。アブラムは、エジプトの王パロの支配する国で生活を始めたのですが、彼には心配がありました。その心配とは、自分の妻が美人のため、パロに見染められ、彼女を自分のものにしたいと考えるパロによって自分は抹殺されるかもしれない、という心配でした。そこでアブラムは妻に、私のことを夫であるとは言わず、妹だということにしておいてほしい、と頼みました。すると案の定、間もなくサラの美貌はパロの目に留まり、そのとき彼女は独身を装っておりましたので、パロは彼女を召し抱えてもよいと判断し、召し抱えてしまったのです。そしてアブラムは、そのサラの兄として王家と親類関係を結んだため、沢山の財産を受け取ったのでした。アブラムは考えられないような嘘をつき大変な失態を犯してしまいました。神はそこでアブラムと妻サラを救い出されました。神はパロに災いを下し、その災いは既婚のサラを召し出したことに起因するのだということを神はパロに知らせたのです。結果、パロはアブラムを救し、彼を平和にエジプトから去らせることをしました。そして事は一件落着し、アブラムは危機から救われます。(後にアブラムはアブラムになってからもう一度同じ嘘を違う王についてしまいます。)そして、再びカナンの地に戻ってきたアブラムは、ここまで共に生活してきた甥のロトとの決別を決断します。この時、状況的にはアブラムが先に土地を選ぶこともできました。しかしアブラムはロトに低地と高地のどちらがいいか聞き、ロトが望んだ通り緑が溢れるソドムとゴモラの低地をあげたのです。アブラムは見るからに痩せ細った土地だったところで最初にやったことは祭壇を築いてそして神様に感謝を捧げます。ソドムとゴモラは見ただけで見目麗しい土地でしたが、そこで戦いが起こります。アブラムは、自分のロト達が捕虜になったことを聞き、軍隊を連れてすべての財産を取り戻し、親類のロトとその財産、他の人々も取り戻しました。ソドムの王はアブラムに財産はあなたが取ってくださいと言いましたがアブラムは糸一本、履き物の紐一本さえ、私は何一つ取らないと言うのです。それから後、アブラムが九十九歳になったとき主はアブラムに現れ、このように仰せられます。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたをおびただしくふやそう。」アブラムは、ひれ伏した。神は彼に告げて仰せられた。「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる。あな

たの名は、もう、アブラムと呼んではならない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしが、あなたを多くの国民の父とするからである。」(創世記17:1-5)

アブラムからアブラハムになった時にサラとの間に子どもが与えられること、そしてロト達が住んでいるソドムとゴモラを神が滅ぼすとしておられることを神から聞きます。アブラハムはその事について神に嘆願します。その時も神はアブラハムの祈りを聞き入れます。

このようにして多くの神との信仰の経験を通してアブラハムは自己中心だったそのデフォルト値を神と共に改めていきました。

## ■ 父の役割

アブラムがアブラハムとなり神の約束の通り息子イサクが与えられます。しかし、神様が現れ「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」とアブラハムに仰せられます。

人間的に考えれば最悪ですがアブラハムは悩んだような記事が聖書には出て来ません。翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、二人の若いものと一緒に息子イサクを連れてモリヤの地へ向かいます。道中イサクは父アブラハムに尋ねます。「火と薪はありますが、全焼のささげ物にする羊は、どこにいるのですか。」アブラハムは答えた。「わが子よ、神ご自身が、全焼のささげ物の羊を備えてくださるのだ。」そして山につきイサクを縛り、刃物で屠ろうとしました。イサクも何も言いませんでした。アブラハムを尊敬していたので父が信じてるものを信じていたのです。アブラハムは神様が絶対に返してくれると信じていたのです。それは過去の数々の失態を犯した時も神は共にいること、神と共に信仰によって決断するならば必ず祝福されることをアブラハムは自分の人生を通してよく知っていたからではないでしょうか。父の役割とは信じて生き様を見せることです。神様がともにいれば神様は働くことができます。自己中心で生きるのではなく神様中心に生きる道を選ばなければいけません。

## ■ 死に至るまで神に忠実に聴き従う

「人に従うより、神に従うべきです。」(使徒5:29)  
私たちが正しいことを人から言われるとき、怒ってしまうならデフォルトの中心は「自分」である証拠です。パリサイ人たちはそうでした。「これを聞いて、彼らは怒り狂い、使徒たちを殺そうと考えた。」(使徒5:33)

私たちの感情はどうでしょうか？私たちのデフォルトの中心は何でしょうか？私たちは行き方を変えていかなければいけません。父の役割というのは全ての事を信じて諦めないでそこに立ち向かうことです。

隣の人が倒れた時にあなたが一緒になって起こして一緒に歩く人になっていくこれが私達の意味です。

## まとめ

アブラハムは、神様が自分を愛しているということを感じていました。良い神様であることを信じていたのです。アブラハムは多くの過ちを繰り返しました。しかし「信仰の父」と呼ばれるほどに成長していったのです。失態や信仰の経験を通してアブラハムは人間的な標準で物事をみることから信じる生き方に変えられていきました。この世の中で大切なものは目に見えません。もし、あなたが生きてくことで虚しく先が見えないのならあなたが自分を追い求めているのです。自分を探して生きるのをやめましょう。あなたが見失っているのはあなたではなく、あなたを愛してくれている方を見失っているのです。私たちの仕事はこの方を「信じること」です。神様は今日もあなたを愛しています。アブラハムは特別な人ではありません。私たちと同じです。「信じて従った」ただそれだけです。私たちも私たちを決して諦めず愛して下さる神様に目を向け、「神を信じる姿」「すべてを信じる」「諦めない」このことを大切にどう生きるか、その生き様を次の世代に残していきたいと思います。

(要約者: 泉水浩)

(2020年6月21日)